



さんじょう

八戸市立三条小学校
令和2年度学校だより
参観日特別号
令和3年 2月24日
☎ 27-2216



成長を喜ぶ

校長 河村雅庸

保護者の皆様、本日はお忙しい中、来校いただきありがとうございます。今年度最後の参観日となりましたが、参観授業をご覧になり、今年度1年間のお子様の成長を感じることができましたでしょうか。

さて、先週末、1月に実施した学力検査の結果が届きました。この学力検査ですが、今年度から全面実施となった新学習指導要領を受け、思考力や活用力を問う問題が多く、内容も昨年度までのものより難易度が上がっています。ですから、正直、ドキドキしながら結果を見たところ、どの学年も全国平均を大きく上回る結果で（学年ごとの細かな状況については、学級懇談で説明があります）、安堵しているところです。

ところで、学校では、子どもたちの学力向上を目指し、日々の授業づくりに取り組んでいることはもちろんですが、まずは「挨拶をする」、「きまりを守る」、「人に親切にする」などの身近なことが、当たり前になるようにすることを目指しています。このことに関して、以前、先輩の教員から「悪魔は細部に宿る」という言葉を聞いたことがあります。その意味は、例えば「学力の向上」という大きな目標が達成困難だとすれば、その原因は、実は、掃除が黙ってできないなどの、一見、学力向上とは次元の違うような身近な細部に存在していることを警告するものだということです。小さな当たり前のことができなくて、目指す大きな目標に到達できるはずがない、ということなのです。

これから年度末に向かいますが、目の行き届かない悪魔が宿る細部が多くならないように、お家でも引き続き、目をかけ、声をかけ、心をかけていただければと思います。学校でも、教職員が一丸となり一つ一つ小さな悪魔を退治して、大きな目標「自分をのばす」達成に向けて更に努力いたします。今年度まとめの1か月、これまで以上に保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



数年前、とある研修会に参加した際に頂いた資料に掲載されていたものを紹介します。（『子どもが育つ魔法の言葉』）

今年度まとめの今、学校でも、子どもたちの1年間の頑張りや成長をしっかり自覚させ、認め励ましていきたいと思いますと先生方に話しているところです。

子は親の鏡（一部抜粋） ドロシー・ロー・ノルト作

励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは明るく育つ
愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる
守ってあげれば、子どもは強い子に育つ